質問4. 所属する学会について ＜複数回答可＞ （その他）

その他記述	件数
日本免疫学会	2
ウイルス学会、インフルエンザ研究者交流の会	1
バイオインフォマティクス学会	1
顕微鏡学会、生物物理学会	1
蛋白質科学会、免疫学会、生物物理学会、生物工学会	1
日本化学会、日本結晶学会、日本蛋白質科学会	1
日本結合組織学会	1
日本再生医療学会	1
日本植物病理学会、日本土壌肥料学会、日本農芸化学会、American Society of Plant Biologists、日本植物細胞分子生物学会、植物化学調節学会、日本菌学会	1
日本農芸化学会	1
日本薬学会、日本炎症再生医学会	1
日本薬理学会、日本認知症学会	1

質問6.「質問5. 第36回年会コンセプトについて」の回答理由

質問5. 回答　1.よかった
2.学術講演以外はするべきではない
3.特になし

※	質問5 回答	理由記述
※	1	科学と社会との関係、また研究者社会の課題といったところは実は研究者となる入り口からの教育が必要だと考えてきた。意識のある方々が発信することで全体のレベルが上がり、ひいては研究環境の向上等にも繋がり、それが研究成果に繋がっていけばプラスの連鎖が期待できるのではないか。
※	1	日頃考えていることを、ガチで討論する機会は、これからもあったほうが良い。
※	1	参加できるかどうかは別として、色々やるのはおもしろくていいと思う。
※	1	変革を求めるのであれば、新しいことに挑むのは当然ですし、その努力を行ったということで評価できると思う。
※	1	閉じた系（学術講演のみ）では情報伝達効率は上がるかもしれないが、発展性に乏しいと考えるため。
※	1	今回の年回は、会員の意識改革と社会へのアピールにつながるものと感じました。学術講演以外はしないというのは、今後は通用しなくなるのではとも思います。
※	1	研究全般における問題意識を高められたと思う。
※	1	研究問題は確かに存在しており、それを学会が無視する状況は自己矛盾。今年の企画はいずれも意義がある。継続するべき。サイエンスのアウトリーチは、全参加者に課してもよい。
※	1	学会の存在意義について正面から取り組むのは重要であるから。
※	1	問題を認識していながらそれを話し合う場がなかなかなく、今回の年会のように多くの研究者が集まる場で並行して開催してもらえると、参加しやすいと思います。
※	1	新しい試みにチャレンジしてみることは大事なことで、次年会の際に今回の成果が見えてくると思う。学会は参加して、自分の成果を発表し、新しい情報を持って帰る場（つまりお客様）と考えていたが、今回は、学会とは皆で作り上げる場であることを学んだ。学会が抱える課題をタダの参加者も考えなければならないことが身にしみました。
※	1	新しい試みはどんどん行うべきであると思うため。
※	1	飲み屋の与太話的会話の中には、普段、ラボの会議室でしかつめらしい顔でする議論だけからは生まれない柔軟な発想が宿っている。それを普段はなしあうラボメンバーではなく、かかわったこともない人と使った事もない脳領域つかって会話する刺激は、有意義だと思う。なにも365日24時間やれってんじゃない、年に一度の学会だもの。
※	1	ファラデーとか、かつて科学は知的階級のエンターテイメントだったのです。文化としての科学を大切にしてもいい。
※	1	アート企画や最終日の企画といったこれまでにない企画がなされていたから。
※	1	研究者としての倫理や哲学は重要であると考えており、日本においては残念ながら、その教育が弱いため。それ以前の人間としての、家庭、義務教育、社会における教育も問題かもしれないが、昨今のゲノムやインフォ関連の研究技術の進歩が著しく、実用性が極めて高いだけに、より公正な研究を推進し、望ましくない使用に陥らないためにも上記の教育は必要で、応急的には学会が取り上げてくれたことには、大賛成です。今後は、必要なくなるように、ガチででも取り上げて、社会を動かすのが望ましいかもしれませんが。
※	1	ウェブセミナーなどが可能な状況の中、学会の意義が小さくなってきている。
※	1	科学技術は税金によってまかなわれています。科学技術は、日本にとって大切なものですが、なかなか理解は得られていません。しかし、その理解を得るための研究者の努力も、非常に重要ですが、なかなか研究の大切さを訴えるのは難しいです。その必要性をアピールしていただいたし、また、そのためには研究者も協力すべきと痛感しました。
※	3	今までにないことをした、という事実自体に問題は感じないが、それによって何がどう解決したか、解決できそうかを示してほしい。
※	3	学会の規模が大きすぎて全く参加する気になれなかったし、満喫できなかった。企画自体は非常におもしろいと思うので、もう少し小さい規模の学会で行わ
※	3	出席していないので、意見は差し控えさせていただきます。

質問8.「質問7. 年会特別企画について良かったもの ＜複数回答可＞」の回答理由

質問7. 回答
1. 「生命科学研究を考えるガチ議論」
2. 特別シンポジウム「薬を創るということ」
3. 「学会とJAZZの融合」
4. アート企画「サイエンスとアートの接点」
5. SFトークショー「2050年シンポジウム」
6. 公開プレゼンテーション「生命世界を問う」
7. 海外ポスドク招聘企画（旅費補助）
8. 特別企画全般について評価していない
9. 特になし

※	質問7 回答	理由記述
※	1	学会には出席しなかったが、それ前にあった自由参加に出した。
※	1	今回の不正問題に対して、研究者ができることを議論するのは重要と思います。研究が複雑化・多様化。巨大化している現在、各自が研究の原点を見直す時間が必要ではと感じます。
※	1/2/3/4/5/6/7	1,7は巨大学会でしか出来ないことで、参加者たちの研究環境を整える手伝いもできることが示されたと思う。5,6で報道を引き込んだ点も巨大学会であってこそだが、サイエンスアウトリーチとして学会員以外の方々に夢を与えられる非常に良い企画だったと思う。2は企画されることに時代の流れを感じたが、企業研究者としては基礎の大御所の分生に受け入れられた感が嬉しかった。内容も面白かったし、力をもらった。3,4は学会に必要かどうかは私には分からなかった。しかし、個人的にはJAZZが大好きで、アートも興味あったので、絶対に今年は学会参加したいと思わされたし、実際には最高に楽しませていただいた。
※	1/2/3/4/5/6/7	学会全体に活気が加わった。関係者の皆様、大変ご苦労さまでした。感謝、感謝、感謝、. . . です。
※	1/3/4/5/6	good jobです。
※	1/3/4/5/6	分子生物学会は1980年代の中期頃から通っています。昔は800人ぐらいだったと思います。しかし、遺伝子工学がやっと解禁になり、分子生物学がすごい勢いで発展したころで、若い人がジーンズで発表して大先生にも突っ込める素敵な会でした。それが、だんだんと普通の学会になりかけていたので、今回の企画は非常に楽しかったです。
※	1/3/4/5/7	特に「2050年シンポジウム」が面白かった。BS放映だけでなく、ネット配信しても良いのでは。
※	1/3/5/7	これまでの学会意識を変えるよい取り組みだったと思います。個人的にはJAZZが非常にすばらしかった！！飛び入り参加したくなりました。
※	1/5	堅苦しくなく、本来のサイエンスの楽しさを思い出せるような試みだったと思います。また分野を超えた交流の場となり、実際に知り合いが増えたので、よい機会をいただけたと思っています。
※	1/5/7	ガチ議論、分生に限らず学会というかアカデミア全体にとって必要で、それを政府（たとえ脱藩浪人だとしても）高官と出来るのは有意義。各国が自国内だけを見ていては生きていけない世の中に、日本国内の他の経済やら行政のあれやこれやすら見る事もできず、盲目的に「研究するから金くれ」ではやっていられない状況を、科学者も理解しながら自身の研究を行うべきだと思う。SFトークショーは上記の通り。海外ポスドクもリアルに励みになるでしょう。アートと音楽はよくわかりません。
※	2/3/5	「薬を創るということ」：製薬企業の一社員として、創薬分野に関心を抱いている人の多さに正直驚いた。これを機に、若手分子生物研究者が製薬業界で力を発揮することを期待したい。「学会とJAZZの融合」：音楽を通じてならば、普段は話せないような立場の先生とでも交流できるので、いい試みだと思う。自分もジャズプレーヤーなので、次の機会には是非参加したい。「2050年シンポジウム」：先生方が真面目にふざけている姿が単純に楽しかった。
※	3	シンポジウム等は参加できなかったが、音楽が流れているのは気分転換にいいと思う。
※	3/4/5/6	学会はアトラクティブであってほしいと考えています。いろいろな意味でとにかく目を引かれる企画満載で全体的には評価すべき点が多いと感じました。ガチ議論に関してはいかんせんツイッター情報が、壇上とがかみ合っていなかったように思います。やり方に改善の余地あり。特別シンポジウムは参加しませんでした。
※	7	国内でもポスドクという立場の不安定さに憂慮する方が多い中、海外在住の方はなおさらと思います。こういった企画はポスドクの方々を勇気づけると思います。
※	7	JAZZやアートに関しては学会場が広すぎるため、どこにあるのかわからず行くことができなかった。またスケジュールがタイトに感じたので、行く暇がなかった。海外ポスドク招聘企画に関しては、留学未経験者にとってはとても良い機会だったと思うし、海外ポスドクが日本の研究社会と繋がりを持てるのは良かったと思う。
※	8	出席していないので、意見は差し控えさせていただきます。
※	9	残念ながら特別企画に参加する時間がなかったため。

質問9. ITシステム全般について ＜複数回答可＞ （その他）

※	その他記述
※	出席していないので解らないが、新しい試みで遣られたようで、次は参加してみたい。
※	My scheduleに並び替え機能があると便利だと思う。
※	IT化に伴う弊害として、プレゼン中にノートPCやタブレット端末を使用する方が目立ったように思います。写真撮影・録音同様の注意喚起が必要ではないでしょうか？
※	ITシステムを使いこなさなければ参加できなくなるような、参加しづらくなるような学会にはして欲しくない。
※	ITががんばったのは認めるが、ポスター会場遠すぎです。

質問10. 本年度プログラム集の軽量化について ＜複数回答可＞ （その他）	
※	その他記述
※	今回のプログラム集はどうなっているのか解らないが、以前頂いていたプログラムは重く、何とかしていただきたいと思ったものである。
※	IT版での著者索引が欲しかった。
※	今回の冊子は持ち歩きやすく、よかったですが、パソコンやタブレット等を持っていないと全プログラムが分からないことは問題だと思います。実際に今回のポスター発表は見に行く気が減弱してしまいました。そこで、分冊化はできないでしょうか。年会参加中持ち歩くものと予習復習に必要なものに分かれている、もしくは日程別に分かれている、などが考えられると思います。

質問11. シンポジウムについて （その他）	
※	その他記述
※	会場の選び方が不適切である。人気のあるセッションに小さい会場が使用され満員で外まで人があふれる一方で、あまり人のいないセッションに大会場が使用されて、席がガラガラな場面が多数見られた。特に英語のセッションは内容にかかわらずあきらかに人が少なかった。
※	立ち聴講で溢れるような会場設定は、大盛会ゆえとはいえ、予想が甘かったのでは？

質問12. ワークショップについて （その他）	
※	その他記述
※	もう少しセッションが多くてもよかったかと思う。
※	聞きたいものが重なってる傾向があった。同じ時間帯をお住み分ける方法はどうしていたのだろう。
※	会場がもっと広ければと思う。
※	上記と同様に、立ち聴講で溢れるような会場設定は、大盛会ゆえとはいえ、予想が甘かったのでは？また、聴きたいものが重ったりもしました。

質問13. 一般演題について ＜複数回答可＞ （その他）

※	その他記述
※	最終日にﾎﾟｽﾀｰもあったほうが参加者も多かったのでは？ワークショップやｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑは座席数が少なかったこともありﾎﾟｽﾀｰ中心に見て回ったため。
※	ポスター会場はできれば1箇所の方が見に行きやすい。分けるのなら、もう少し近場にして欲しい。
※	会場が見つけにくい。もっとまとめて欲しかった。

質問14. 高校生の発表(年会参加)について （その他）	
※	その他記述
※	見れば良かったと後悔しています。もう少し、案内があっても良かったかも知れません。

質問15. 企業説明会＆リクルートブースについて （その他）	
※	その他記述
※	記述なし

質問16. 本年会の規模について（その他）	
※	その他記述
※	記述なし

質問17. 年会の開催形式について ＜複数回答可＞（合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか）	
その他記述	件数
生化学会	1

質問17. 年会の開催形式について ＜複数回答可＞ （その他）	
※	その他記述
※	前の合同開催は、人数が増えるばかりで、項目を分けた分科会形式で遣るのであれば、合同開催で人数が増えてもOKかな？と思う。
※	基本的には単独開催がよいが、数年に1回程度、他学会との合同開催もしくは一部合同開催があるとプログラムに新鮮味が感じられ、勉強になると思います。
※	合同開催という形で大きくする事に主眼を置くのか、それとも合同開催を手がかりとして吸収合併に持っていくのか。今後、日本国民の人口自体が減少している現状で分生の学会員だけが会員を増やすということはありえない。少人数で小回りの利く学会を目指すのか、大規模で融通がききにくくても生命科学全体の中央、王道を示す学会になるのか。私は年会長の負担はあるのは申し訳ないとしても、この大所帯で融通の利きにくい学会のまま、年会のテーマを工夫することで生命科学の中央にいて欲しいと思うのですが。
※	学会ごとに「特色」があると思います。合同開催にすると、規模が大きくなりすぎて、「体力」を越えてしまいます。
※	昔、進化学研究会を東大校内で立ち上げたとき、ビールを飲みながら動物行動学の人を呼んだりしましたが、考古学の分野、動物行動学の分野と協調することで新たな進化の地平が見えてきました。ウマ科学会では、弁護士の先生まで来ます。心理療法、古代史、すべて参加してもらっていますが、非常に興味深い話が聞くことが出来るようになっています。

質問18. 理事会企画のフォーラムについて （その他）	
※	その他記述
※	記述なし

質問19. その他、年会についてのご意見、年会に望むこと	
※	その他記述
※	何とは言えないが、学会自体がマンネリ化していて新しい情報等を得にくくなっていると思う。これを打開するために今年度新しい試みをしたと思うが、これからも新しい試みを随所に採用し、魅力のある学会にしていってほしい。
※	発表時以外は県外の学会への参加が難しいため、本年度は参加できませんでしたが、新しい学会への挑戦企画に共感しました。これからも斬新な企画を期待しています。
※	大変に面白く参加させていただいた。学術講演のみでなく新しい試みは是非やるべきだと思う。様々新規な試みについて隣にいる知らないヒトに割に気軽に話しかけることができてよかった。気軽に話ができる雰囲気作りは来年度も行ってほしいと思う。学術講演に関しても分野が異なる報告を多く聞いて情報を得ることができてよかった。シンポジウムのレベルはすばらしかった。
※	18時以降の企画が魅力的ではあったものの、学会の夜は旧友との再会を楽しむ場でもあるので、参加できない日の方が多かった。次もガチ議論があるのなら、是非とも昼間に御願いしたい。
※	・発表会場が分散している。・人気なセッションは混雑で会場内に入れないことがあった。→会場設定をもう少し改善して欲しい
※	ポスター発表会場が複数になる場合は、可能な限り近くしてほしい。
※	本学会には最前線で研究されている先生方以外に最新の研究動向の情報収集を目的としている方（特に企業研究者）が多数参加されている。専門性が非常に高い内容で英語の発表の場合、少しでも専門外であると、格段に理解度が下がるため、内容的には興味があっても、日本語のセッションに流れるのである（学生も同様であろう）。日本語を日常言語としている参加者が99%を占める国内の学会なのだから、理想論は別として、聴衆の理解度を上げるためにシンポジウム等はなるべく日本語を使用すべきである。分子生物学会は個々の発表の質が高く、生物系の様々な分野の研究者が結集するため、異分野も含めた最新の研究内容に気軽に触れられる貴重な場であることを意識してもらいたい。
※	例年、年会では勉強になったとの感想を持つが、今回は非常にワクワクし楽しかった、との感想です。本アンケートですが、真摯に考えて、できるだけ自由記述にコメントを記載しようと思うと非常に時間がかかります。もし可能であれば、一時保存できる機能を付けてもらえると、助かります。
※	近藤先生、近藤先生の下で初めての「トンデモ学会」を実行された下働きのみなさん、本当にお疲れ様でした。
※	これだけネットが使えると知人との連絡は学会は必要ない。今回おもしろかったのはイイねしてくれた人が聞きに来てくれるとよけいに親しみがわいたこと。
※	理事会の企画で実施しましたフォーラム「研究公正性の確保のために今何をすべきか？」は、大変タイムリーで、良い企画だと思いましたが、シンポジウムやワークショップの時間帯に重なっていて、参加できず、残念です。
※	分子生物学会は、自由な発想、自由な人々の参加があってもいい学会です。確か、1980年代の仙台の学会で、トラックの運転手が、「ウイルスは生命体か非生命体か」というのを発表していました。畑中先生の本にはこう書いてあるとかを含めてです。研究者だけの学会にするのではなく、一般の人、小学生を含めて参加出来る学会にすることで科学技術研究費を税金から賄うことの理解を得られるし、なんといっても将来、分子生物学者になりたい子どもの教育にもなりますし、その親の理解にも繋がります。今回の年会に終わらない素敵な学会にしてください。